

各章と既発表論文との関係

- 第 1 章 新規執筆
- 第 2 章 新規執筆
- 第 3 章 李承英(2003b)「玉塵抄における引用文献」『筑波応用言語学研究』10 筑波大学文芸・言語研究科
- 第 4 章 李承英(2004)「玉塵抄における韻書」『言語学論叢』23 筑波大学一般・応用言語学研究室(印刷中)
- 第 5 章 李承英(2002a)「室町時代における呉音と漢音—『玉塵抄』を中心に—」『日本学報』第 53 輯 韓国日本学会
- 第 6 章 李承英(2003a)「室町時代抄物における清音と濁音」『日本語と日本文学』第 37 号 筑波大学国語国文学会
- 第 7 章 李承英(2002b)「玉塵抄における反切と字音」『筑波応用言語学研究』9 筑波大学文芸・言語研究科
- 第 8 章 李承英(2005)「室町期抄物における『ヨミクセ・クセ』『ヨミツケ』『ヲシツケ(ヨミ)』『名目(ツカイ)』—用語の分布と意味—」『日本語の研究』第 1 巻 1 号(『国語学』通巻 220 号)日本語学会(印刷中)
- 第 9 章 新規執筆

*本論文は、既発表論文を中心として、これに書き下ろしの論文を加えたものである。

なお、本論文をなすに当たってはすべての既発表論文に加筆・補正を行なった。